

2015 卒業試験 再現問題 Aブロック

(A1)

挫傷の好発部位はどこか？

- a 頭部
- b 頸部
- c 胸部
- d 腹部
- e 臀部

(A2)

40歳の女性。動悸と息切れとを主訴に来院した。10日前から月経出血が止まらず、出血量もこれまでより多かった。さらに数日前から階段を昇るときに息切れと動悸とを感じるようになった。脈拍 96/分、整。血圧 120/78mmHg。皮膚は蒼白で前胸部と下腿とに点状出血を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球 250 万、Hb 7.5g/dL、Ht 24%、網赤血球 3%、白血球 8,800(骨髄球 1%、桿状核好中球 9%、分葉核好中球 55%、好酸球 1%、単球 9%、リンパ球 25%)、血小板 3,000。骨髄血塗抹 May-Giemsa 染色標本(A, B)を次に示す。

最も考えられるのはどれか。 105D-27

- a 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)
- b 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)
- c 急性骨髄性白血病
- d 慢性骨髄性白血病
- e 再生不良性貧血

(A3)

重症筋無力症で典型的な症状に含まれないのはどれか

- a 眼瞼下垂
- b 呼吸障害
- c 嚥下障害
- d 排尿障害
- e 夕方に増悪する筋力低下

(A4)

てんかんに関する記述で誤っているものはどれか

- a. てんかんの有病率はおおよそ 1%である
- b. 海馬硬化の原因として熱性けいれんがあげられる
- c. 前兆予測の診断として病歴聴取が重要である
- d. 高齢者のてんかんの原因として最も多いのは、感染症である
- e. 適切な薬剤治療によって、発作の約 70%をコントロールできる

(A6)

新しく発売された抗菌薬 A の肺炎に対する治療効果を調べるために、新たに入院する肺炎患者を対象として、抗菌薬 A を投与した群 (A 群) と既存の抗菌薬 B を投与した群 (B 群) とに割り付けて、治療効果を入院期間で比較検討した。得られた結果を表に示す。

	A 群	B 群	P 値
対象者数	198 人	201 人	
入院期間 (平均)	8.1 日	9.6 日	0.036

この結果の解釈について正しいのはどれか。

- a A 群は B 群に比べて入院期間が平均で 3.6% 短い。
- b A 群の入院期間の平均値の誤差は 3.6% 以内である。
- c A 群の方が B 群より入院期間が短くなる確率は 3.6% である。
- d A 群の 96.4% の患者は入院期間が B 群の平均入院期間よりも短い。
- e A 群と B 群とで入院期間に差がないのに、誤って差があるとする確率は 3.6% である。

(105B43)

(A7)

視力障害を主訴に来院。角膜、水晶体に異常無し。眼圧左 13mmhg 右 16mmhg。

眼底所見 乳頭部陥凹無し 静脈が乳頭上で曲がっている。視野検査 右目:右下 1/4 に暗点 左下中央に弓状暗点

- a 視神経炎
- b 開放隅角緑内障
- c 白内障
- d 糖尿病
- e 中心性静脈閉塞症

(A8)

ボツリヌス中毒で認められないもの

- a, 縮瞳
- b, 眼瞼下垂
- c, 輻輳反射消失
- d, 対光反射消失
- e, 眼球頭反射消失

(A10)

膀胱腫瘍で壁内深達度の診断に有用なのはどれか。

- a 膀胱鏡検査
- b 骨盤部 MRI
- c 逆行性膀胱造影
- d 骨盤部血管造影
- e 腹部超音波検査

(A12)

我が国の 2011 年の国民医療費について正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a. 患者 4 割負担である
- b. 訪問介護を含む
- c. 健康診断を含む
- d. 国民医療費の総額は 10 年前に比べ増加している
- e. 国民 1 人あたりの医療費は 10 年前に比べ増加している

(A14) (107D47)

32 歳の女性。挙児希望のため不妊外来を受診し、その後内科外来へ紹介された。現在妊娠していない。18 歳で糖尿病と診断されたがそのままにしていた。身長 154cm、体重 62kg。尿所見：蛋白（－）、糖 2＋、ケトン体（－）。血液生化学所見：血清インスリン 8.7 μ U/mL（基準 5～15）、抗 GAD 抗体 0.6U/mL（基準 1.5 以下）、尿中アルブミン排泄量 8.6mg/gCr（基準 30 未満）。随時血糖 208mg/dL、HbA1c（NGSP）7.8%（基準 4.6～6.2）。眼底検査で網膜黄斑部に点状出血を認める。まず行うべき治療はどれか。

- a 食事療法
- b ビグアナイド薬の投与
- c スルホニル尿素薬の投与
- d インクレチン関連薬の投与
- e 超速効型インスリンの投与

(A16)

妊娠時高値

- a. 血圧
- b. 腔内 pH
- c. 空腹時血糖
- d. 腎糸球体濾過値
- e. 血漿フィブリノゲン

(A17)(108E54)

36歳女性 1 経妊 1 経産。第一子が down 症。第二子の検査希望。

まず行う対応は？

- a 羊水検査
- b 絨毛検査
- c 両親の染色体検査
- d 遺伝カウンセリング
- e 母体血清マーカー検査

(A21)

裂孔原性網膜剥離について正しいものひとつ

- a. 目が乾く
- b. めまいがする
- c. 物が二重に見える
- d. カーテンが引かれるような視野欠損がある
- e. 目の奥の痛み、吐き気

(A22)(107G5 改変)

母子保健法による母子保健事業としておこなわれていないのはどれか

- a. 母子健康手帳
- b. 出生証明書
- c. 妊婦健診
- d. 未熟児の医療費？訪問指導？
- e. 3 歳児健診

(A24) (103E10)

ノーマライゼーションで正しいのはどれか。3 つ選べ。

- a 障害者の自立
- b 身体機能の正常化
- c 経済的支援の促進
- d 社会的理解の促進
- e 障害者の社会における普通の生活の実現

(A26)

吸入療法をしたがよくならなかったなので経口薬投与した。副作用で謝ってるものを選び。

- a 肺炎
- b 白内障
- c 骨粗鬆症
- d 糖尿病
- E ネフローゼ症候群

(A27)

頸静脈怒張をきたさないものはどれか

- a, 緊張性気胸
- b, 高位脊椎損傷
- c, 収縮性心膜炎
- d, 肺血栓塞栓
- e, アナフィラキシー

(A28)

68 歳男性。10 年前に胃癌にて胃全摘を受けている。最近、息切れがして、足先の感覚が鈍い。血液検査:赤血球 175 万、Hb 8.4g/dl、Ht 24.5%、その他正常範囲内。考えられる疾患は。

- a,巨赤芽球性貧血
- b,再生不良性貧血
- c,骨髓異形成症候群
- d,自己免疫性溶血性貧血
- e,発作性夜間血色素尿症

(A29)(108A22)

40 歳の女性。呼吸困難を主訴に搬入された。約 20 分前、勤務中に突然息苦しさが出現した。半年前から、1 ヶ月に数回程度、突然息苦しさが出現し、同時に動悸、めまい感、悪心および意識を失いような恐怖を感じたという。いずれも 10～30 分で症状は完全に消えた。内科で精査したが発作時の心電図検査を含めて異常はみられていない。今後みられる可能性が高い症状はどれか。

- a 解離
- b 強迫
- c 失神
- d 過覚醒
- e 予期不安

(A30) (108D6)

高齢者の複雑部分発作の治療薬として最も適切なのはどれか。

- a バルプロ酸
- b ジアゼパム
- c クロナゼパム
- d カルバマゼピン
- e フェノバルビタール

(A33) (105D25)

76歳の男性。黄疸を主訴に来院した。3日前に家族に皮膚の黄染を指摘されていた。3年前に唾液腺腫瘍を摘出した。飲酒は機会飲酒。意識は清明。身長168cm、体重57kg。体温36.4℃。呼吸数16/分。脈拍72/分、整。血圧126/82mmHg。眼球結膜に黄染を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。肝・脾を触知しない。尿所見：蛋白（－）、糖1＋。血液所見：赤血球465万、Hb14.1g/dL、Ht45%、白血球8,100、血小板16万。血液生化学所見：血糖201mg/dL、HbA1c（NGSP）7.1%（基準4.6～6.2）、総蛋白9.6g/dL、アルブミン4.6g/dL、尿素窒素19mg/dL、クレアチニン0.5mg/dL、総ビリルビン6.8mg/dL、AST86IU/L、ALT78IU/L、LD540IU/L（基準176～353）、ALP1,230IU/L（基準115～359）、Na138mEq/L、K4.0mEq/L、Cl102mEq/L。免疫学所見：CRP0.8mg/dL、IgG3,890mg/dL（基準739～1,649）、IgA118mg/dL（基準107～363）、IgM132mg/dL（基準46～260）、CEA2.8ng/mL（基準5以下）、CA19-926U/mL（基準37以下）。腹部造影CT（A）と内視鏡的逆行性胆管膵管造影写真（ERCP）（B、C）とを次に示す。原因として最も考えられるもの

1IGG4 2抗ミトコンドリア抗体 3抗平滑筋抗体 4RA因子

(A35)

血液生化学所見で正しいものを2つ選べ

- a LDHは臓器特異性が高い
- b 門脈周囲域の炎症で上昇するのはALT
- c 血清アミラーゼの80%は膵性(P型)
- d Bence Jones 蛋白は抗体のlight chain由来である
- e 免疫応答において最初に増加するのはIgGである

(A38)

十二指腸閉塞をきたすのは？

- a 薬剤性腸炎
- b 十二指腸憩室
- c 上腸間膜動脈症候群
- d 好酸球性腸炎
- e 十二指腸粘膜下異所性膵

(A39) (90D27)

67 歳の男性。5 年前に左心不全を伴う心筋梗塞で 3 ヶ月入院した。退院後も階段や坂道で息切れと動悸とを感じていた。2 週間前から平地を歩いても息苦しく、夜間床に就くと空咳と呼吸困難とを生じるようになった。呼吸困難で寝ていられないので救急車で来院した。来院時、四肢に冷感と冷汗とはない。呼吸数 24/分。脈拍 102/分、整。血圧 120/86mmHg。全肺野に湿性ラ音を聴取する。下肢に浮腫を認め、腫大した肝を触れる。

この患者の Swan-Ganz カテーテルの検査結果として最も考えられるのはどれか。

平均右房圧 (mmHg) 平均肺動脈楔入圧 (mmHg)

心係数 (L/min/m²)

- a 0 4 1.5
- b 4 21 1.5
- c 4 21 2.5
- d 15 10 1.5
- e 15 21 2.5

この問題の改題だと思います。数値は若干違いました。画像は肺水腫になってました。

(A40)

正常妊娠について、正しいものを 3 つ

- a. 血圧は上昇する
- b. 空腹時血糖は低下する
- c. 尿中 hCG で妊娠反応を調べる
- d. 超音波で妊娠 4 週で胎嚢が認められる
- e. 妊娠 35 週では、ノンストレステストで一過性頻脈が認められる

(A41)

気管支鏡検査について正しいものはどれか。

- 1. 結核を合併している場合は禁忌。
- 2. 緊張性気胸の検査及び治療として用いられる。
- 3. 早期肺門部癌の検索には蛍光よりも白色光のほうが有用。
- 4. 気管支肺胞洗浄は気管分岐部で行われる。
- 5. 局所麻酔薬の過剰噴射には不整脈、〇〇、〇〇などの副作用がある。

(A45)

橈骨動脈の拍動とほぼ同時に聴取するのは

- A, I 音
- B, II A 音
- C, II P 音
- D, III 音
- E, IV 音

(A48)

胃癌について当てはまっているものを2つ選べ

- 1 早期ガンではⅡcが多い
- 2 浸潤がんでは1がおおい
- 3 潰瘍には内視鏡禁忌
- 4 ヘリコバクターピロリ菌が関係している

(A49)(108-I68)

52歳男性、排尿困難を主訴に来院した。6ヶ月前から夜間に尿意で目が覚めるようになった。1ヶ月前から頻尿となり、2週前から排尿の開始までに時間がかかることを自覚している。慎重 172cm、体重 68kg、体温 36.4℃、脈拍 72bpm、血圧 134/82mmHg、呼吸数 12 回/分、腹部は平坦、軟。直腸指診で小鶏卵大で男性硬の前立腺を触知し、圧痛を認めない。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、沈差：RBC1-4/1視野、WBC1-4/1 視野。血液生化学所見：PSA 2.8ng/ml(基準4以下)、国際前立腺症状スコア 18 点(中等症 8-19 点)、腹部超音波画像(A,B)を示す。前立腺体積は 46ml、残尿量は 80ml であった。

画像もQBのウロに同じの乗ってます。典型的なBPHのエコー画像です。

まず行う対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 自己導尿の指示
- c α1 遮断薬の内服
- d 経尿道的前立腺切除術
- e 抗コリンエステラーゼ薬の内服

(A53) (108G32)

子宮付属器について正しいのはどれか

- 1.卵管膨大部で受精する
- 2.卵管には蠕動運動がある
- 3.黄体は排卵前から形成される
- 4.卵巣は円靭帯で子宮とつながる
- 5.原始卵胞は卵巣の髄質層にみられる

(A57)

我が国の心臓移植の現状について正しいもの

- a 待機時間が短い
- b 若者が多い
- c 近年急速に増えている
- d 虚血性心疾患が一番多い
- e 術前にはすでに強心薬、補助循環装置などがなされている

(A58)

41 歳、男性。2 か月前から箸が使いにくくなり受診。身長 171 cm、体重 67kg。1 度高血圧があるが、他バイタル問題なし。徒手筋力テストで上下肢 4。感覚障害なし、小脳失調なし。

この患者に行うべき検査は何か。

- a 脳波
- b 頭部 MRI
- c 針筋電図
- d 誘発筋電図
- e

(A60) (103D49)

74 歳女性、左目の視力低下、1 週間前から鈍痛を自覚。50 年前に副鼻腔炎で手術の既往 CT,MRI を示す。

- a 経過観察
- b 抗菌薬投与
- c 上顎洞穿刺
- d 眼窩減圧術
- e 篩骨洞手術

(A63)

小児の特発性ネフローゼ症候群について正しいのはどれか。2 つ選べ。

- A, 5 歳までに好発する
- B, 組織病型は巣状分節状糸球体硬化症が多い
- c, 第一選択薬は副腎皮質ステロイドである
- d, 約 9 割が再発する。
- E, 成人まで持ち越す。

(A65)(108A48)

75 歳の女性。左手関節部の腫脹と疼痛を主訴に来院した。歩行中につまずき左手をついて転倒したとのことである。手関節部以外に外傷はなく、他に治療中の疾患はない。手関節部から手指まで高度の腫脹を認めた。来院時の X 線写真にて骨折を認めた。伝達麻酔下に徒手整復し手関節屈曲尺屈位で良好な整復位が得られ、その位置で肘上から手指までのギプス固定を行った。消炎鎮痛薬を処方し帰宅させたが、6 時間後に手指の腫脹が進行し指尖が暗紫色となり消炎鎮痛薬が無効な強い疼痛を訴えて受診した。

対応として最も適切なのはどれか。

- a 患肢挙上
- b ギプス除去
- c オピオイド投与
- d ウロキナーゼ投与
- e 星状神経節ブロック



(A60 台)

男性、以前うつ病と診断されて抗うつ薬を服用していた。最近怒りっぽくなり、高額の買い物をするようになった。初期治療は？

- a 抗うつ薬
- b 抗不安薬
- c 抗精神病薬
- d 気分安定薬
- e 精神科リハビリテーション

(A69)

26歳の初産婦。22週に自然破水して以降、子宮収縮抑制薬にて35週まで羊水の流出を伴いながら問題なく経過してきた。

その後の合併症として考えられるものを2つ選べ。

- a.胸水
- b.肺低形成
- c.肺出血
- d.肺分画症
- e.内反足

(A71)

主訴 呼労作時呼吸困難。dip and plateau の図をみて。

間違っているものを選べ

- a kussmaul 徴候
- b I 音亢進
- c 心膜切除術
- d 心筋の拡張不全
- e 利尿薬

(A72)

特発性血小板減少性紫斑病に対して適応とならない治療はどれか。

- a 脾摘出術
- b ピロリ菌除菌
- c プレドニゾロン
- d 抗胸腺細胞グロブリン
- e トロンボポエチン受容体作動薬

(A73) 108H28 の改変

45 歳、女性。脳出血後のリハビリテーションのため入院中である。脳出血にて 2 週間入院し、2 ヶ月前に回復期リハビリテーション病棟に転院した。脳出血の発症前には、共働きで会社勤めの夫と持ち家に 2 人暮らしであった。右方麻痺と言語障害とを認める。会話の理解は良好で、状況判断も適切であるが、発話は困難である。T 字杖と短下肢装具とを用いた平地歩行が可能であり、階段昇降と入浴には介助を要する。自宅内に段差が多く、トイレは和式である。

退院に向けた対応は何か。

- a. 家屋改造を指導する。
- b. 介護保険の申請を勧める。
- c. 自立支援医療を行う
- d. 夫の会社退職
- e. 電動車椅子の準備

(A76) 42 歳男性。7 日前から心窩部痛を訴えている。黒色便を認める。上部消化管内視鏡の画像を別に示す。※画像はおそらくオリジナルで再現できないため概要のみ

「上部消化管内視鏡の画像で消化管壁から噴出性の出血がある」

処置につかうのはどれか。2 つ選べ

- a ヨード
- b クリップ
- c 純エタノール
- d シアノアクリレート
- e SB チューブ

(A77)

アルコール性肝障害でみられないのはどれか。

- a. 肝線維化
- b. 血清 γ -GTP 高値
- c. 肝組織好中球浸潤
- d. 血清 AST/ALT 比 < 1
- e. 肝腎コントラスト増強

(A78)

72歳の女性。前頸部腫瘍を主訴に来院した。40歳代から甲状腺腫を指摘されていたが特に治療は受けていなかった。2週前から前頸部腫瘍が急に増大してきた。身長158cm、体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧138/64mmHg。前頸部に横径約9cmのびまん性の甲状腺腫を触れる。甲状腺腫は硬く、表面に凹凸がある。甲状腺に圧痛は認めない。頸部皮膚に発赤を認めない。右側頸部に径1cmのリンパ節を2つ触知する。血液所見：赤血球380万、Hb11.8g/dL、Ht38%、白血球5,600、血小板18万。血液生化学所見：TSH18.5μU/mL(基準0.2~4.0)、FT₃2.5pg/mL(基準2.5~4.5)、FT₄0.7ng/dL(基準0.8~2.2)。免疫学所見：抗サイログロブリン(TG)抗体18.8U/mL(基準0.3以下)、抗甲状腺ペルオキシダーゼ(TPO)抗体45U/mL(基準0.3以下)。甲状腺超音波検査で右葉下部に著明な低エコー域を認める。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- A,亜急性甲状腺炎
- B,慢性甲状腺炎
- C,無痛性甲状腺炎
- D,甲状腺濾胞癌
- E,甲状腺悪性リンパ腫

(A79)

急速進行性糸球体腎炎を呈した患者の腎生検のPAS染色標本と蛍光抗体IgG染色標本とを示す。最も考えられるのはどれか。(108I-24)

- a.ANCA関連血管炎
- b.IgG4関連疾患
- c.急性間質性腎炎
- d.血栓性血小板減少性紫斑病
- e.全身性エリテマトーデス<SLE>

(A80) [108H29]

70歳の男性。腹膜炎の手術後で入院中である。2週前にS状結腸憩室の穿孔による急性汎発性腹膜炎にて緊急手術を施行された。手術術式はS状結腸切除術・人工肛門造設術であった。術後の経過は良好で、術後7日目に流動食を開始し、術後8日目にはドレーンの排液の性状に問題がなかったためドレーンは抜去した。現在は中心静脈栄養を併用しながら5分粥食を全量摂取している。術後4日目以降発熱を認めなかったが、昨夜急に悪寒戦慄を伴う39℃の発熱があった。他に症状はなく食欲も保たれている。対応として適切なのはどれか。

- a 絶飲食
- b 便培養検査
- c 緊急開腹手術
- d ドレーン再挿入
- e 中心静脈カテーテル抜去

(A82)

21 ヒドロキシラーゼ欠損の先天性副腎皮質過形成で高値になるものを 2 つ選べ。

- a)ACTH
- b)ナトリウム
- c)コルチゾール
- d)アルドステロン
- e)17 α ヒドロキシラーゼ

(A85)

25 歳女性。最近、前頭部頭痛と左目の見にくさを自覚した。無月経と乳汁漏出もある。血清 PRL 256(正常 15 以下)で、下垂体に腫瘍病変が見られる。

この疾患に対する治療は何か。

- 1.
- 2.Hardy 手術
- 3.ドパミン作動薬
- 4.バソプレッシン
- 5.ソマトスタチン